

中井だより

中井やまゆり園

新年のご挨拶

副園長 諸星 仁志

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年の園を廻る状況を振り返らせていただきますと、5月中旬に外部調査委員会の調査結果報告書が公表され、5月下旬には職員の処分があり、知事からも「利用者や家族におわび申し上げるとともに障害福祉行政に対する県民の信用失墜を招き、責任を痛感している。園の改革を進め、当事者目線の障害福祉を実現できるよう全力で取り組む」とのコメントがありました。

7月には支援改革プロジェクトチームで取りまとめられた「当事者目線の支援改革プログラム」の提言を実践するため、取組内容やスケジュールを具体化した「当事者目線の支援アクションプラン～一人ひとりの人生を支援する～」を策定しました。

このアクションプランに基づいて当事者目線の支援の実践に取り組んでいる中、12月に利用者支援中の行為が関係自治体から心理的虐待にあたりと認定されたことは、利用者及び家族の皆様にお詫びいたします。現在、支援改善アドバイザーの指導を仰ぎながら原因究明や再発防止に向け取り組んでいます。

年末には「県立障害者施設の方向性ビジョン」が策定されましたが、中井やまゆり園は県立施設として継続すると整理され、その役割を果たすため、令和8年4月に新たな地方独立行政法人を設立して運営を移行することを目指していくことになりました。

こうした目まぐるしい動きの真ただ中で新年を迎えたところですが、改めて園と本庁が一体となって、利用者一人ひとりの当事者目線に立って、利用者が主体となれるよう人生を支援します。また、障がい当事者が街の中で当たり前で暮らせる地域共生社会を目指し、取組を進めていきます。

園の運営は職員の日々の努力によって支えられていると感じています。全ての職員がこれまでの園の不適切な支援を振り返り二度と同じことを繰り返さないといった強い気持ちを持った上で、①生育歴から本人を理解し、共感する、②園外活動の充実、③「いのちを守る」支援を徹底していきます。

また、利用者と職員は支援される人と支援する人ではなく、一人の同じ人として、尊重する心をもって接していく、ともに人生を楽しんでいくことが大切だと考えています。

ご家族の皆様におかれましては、利用者及び職員の応援を今年もよろしくお願ひいたします。